



設定理由:色水遊びや混色を楽しむ姿から、体や道具を使って絵具に触れ経験を重ね、面白さや感じたことを表現することで、子どもたちの興味関心を深めていくため

対象年齢:4歳児

事例1:色水遊び

● 活動のねらい

子どもたちが絵の具を使って遊ぶことが好きであることから、いろいろな技法や感触を楽しみ探求に取り組むため

● 用意した環境

- ・ペットボトル（2リットル）・絵の具（赤、黄、青の3種類）・透明カップ（大、中、小の3種類）

● 活動内容

赤、青、黄の色水を選び混色に取り組んだ

● 子どもたちの様子

- ・保育者が赤と黄色を子どもの前で混ぜてみせると、歓声や期待の声があがる
- ・ペットボトルに入った色水をコップに注ぎ、色の変化に気付き感想を言ったり質問をしたりして、子どもたちの自然なやり取りが見られた
- ・後半は色水を注ぐ量にこだわる姿が見られた



● 保育者の振り返りと気づき

- ・きれいな色を作ろうと色の配合や量を考えながら、混色を楽しむ姿が見られたが、ペットボトルの大きさは子どもが持ちやすい500mlの方が良かった
- ・こぼしても良い外の環境と、どんな色になっても良い色水の特性が安心感につながり、思い切り遊ぶことができた

● 活動のねらい

子どもたちが絵の具を使って遊ぶことが好きであることから、
いろいろな技法や感触を楽しむ探求に取り組むため

● 用意した環境

- ・絵の具（赤、黄、青の3種類）・白模造紙・梅鉢
- ・ブルーシート・ペットボトルの水

● 活動内容

赤、青、黄の絵具を指や手を使って感触を楽しむ



● 子どもたちの様子

- ・「ぬるぬる」「べたべた」など、絵の具を手に付けた感触を味わっていた。
- ・皿から絵の具を落とし雨を表現したり、前日の台風の話をしていたりしていた
- ・手のひらをパレットにして色を混ぜることを楽しんでいた



● 保育者の振り返りと気づき

- ・保育者が見本を見せると、絵の具の感触や温度を想像して期待を高めていた
- ・絵の具がぽたぽたと垂れることに気づき、台風だった前日の記憶とつなげて、雨や台風を表現していた
- ・実際に手のひらで温度や感触を確かめていたが、後半では体全体を使って塗たくりを楽しんでいた

● 活動のねらい

子どもたちが絵の具を使って遊ぶことが好きであることから、
いろいろな技法や感触を楽しむ探求に取り組むため

● 用意した環境

- ・絵の具（赤、黄、青、白）・白い模造紙・筆
- ・梅鉢・ブルーシート　・梱包用シート

● 活動内容

- ・筆を使用して絵の具で描いてみる（ホール）
- ・2グループ、5名ずつで行う



● 子どもたちの様子

- ・ぶどうやミカンなど、描くために必要な色の作り方を友達に聞き、絵の具を混ぜていた
- ・手洗い時に手についた色の泡になることに気づき、友達とやり取りをしていた

● 保育者の振り返りと気づき

- ・混色を楽しむ子もいれば、柄や食べ物を描くことを楽しむ子もあり、それぞれが好きな方法で表現することを楽しんでいた

専門家から

- ・「何を描いたの？」と聞くのではなく、「色が混ざったね」「ハートだね」等、どの子にも実況中継をすることで心地よく描くことができる
- ・同じ設定で何度も遊んでみると違う子どもの姿が見られる



● 活動のねらい

子どもたちが絵の具を使って遊ぶことが好きであることから、
いろいろな技法や感触を楽しむ探求に取り組むため

● 用意した環境

- ・絵の具（赤、黄、青、白）・白い模造紙・筆
- ・梅鉢・ブルーシート ・梱包用シート

● 活動内容

- ・筆を使用して絵の具で描いてみる
- ・2グループ、4と5名で行う
(前回とメンバーを変えた)



● 子どもたちの様子

- ・筆やパレットの使い方を伝えると、使いたい色や描きたいものを決めて、自ら夢中で取り組んでいた
- ・描きたいもののイメージがあるため、必要な色を友達や保育者に聞きながら、色を作っていた

● 保育者の振り返りと気づき

- ・専門家からのアドバイスを受け、前回と同じ設定にすることで、絵を描くことに苦手意識を持っている子も抵抗なく取り組んでいた
- ・自分が描きたいものを集中して描く姿から、同じ内容でも繰り返しの経験が自信に繋がっていくと感じた

